

保育唱歌におけるフレーベル主義 —豊田英雄の文書を中心に—

東 ゆかり（初等教育学科・教授）

はじめに

日本で最初のフレーベル式幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園は、明治10年の開設当初、唱歌は「当分のヲ欠ク」とされ、その指導法も定まっていなかった。フレーベル式保育に遊戯歌は欠かせないものであったが、保育法を保母たちに傳習するドイツ人で主席保母の松野クララは日本語を話せなかった。一方、開設当時指針となったロンゲとドゥアイの書を『幼稚園』『幼稚園記』に翻訳した桑田新五と関信三は、その翻訳にあたって西洋の音階で書かれている楽譜を掲載しなかった。本研究は、東京女子師範学校附属幼稚園で日々の保育に必要な唱歌遊戯として作成された『保育唱歌』が、どのように誕生し、歴史の流れの中でなぜその役割を終えていったのかについて、日本人保母第一号の一人である豊田英雄の自筆文書を手掛かりに明らかにすることを目的としている。

I. 保育唱歌のはじまり

幼稚園開設にあたって保育に必要な唱歌教材が無かったことから、東京女子師範学校は、明治10年（1877）11月3日に遊戯唱歌「風車」を式部寮へ提出し、11月6日、式部寮伶人による保母らへの唱歌指導が開始された。¹⁾ 11月13日には「皇后宮東京女子師範学校行啓ノ節演奏ノ歌曲伝授ノ為伶員派遣願ノ件」が東京女子師範学校摂理中村正直より式部寮へ送られた。その日のうちに東儀季熙撰譜の「風車」「冬燕居」が最初の保育唱歌として上申され、翌14日には、中村より依頼のあった「風車」（遊戯）と「冬燕居」（唱歌）の墨譜が回附された。

明治10年11月27日、東京女子師範学校附属幼稚園は、皇太后と皇后宮行啓による盛大な開業式を迎えた。この時披露された園児と保母による遊戯唱歌は、皇太后と皇后をたいそう感激させた。そして、この時披露された「風車」と「冬燕居」が、保母の訳詞と伶人の作曲による最初の保育唱歌となった。

II. 宮内省式部寮雅楽課伶人と保育唱歌

明治新政府のもと宮内省に雅楽局が新設された。そこに集められた式部寮伶人たちは、明治7年12月22日から海軍軍楽隊の楽隊屯所に連日通い、楽長長倉（中村）祐庸から楽譜の読み書きを学ぶ「譜学伝習」を受けた。そして明治9年3月には海軍軍楽隊指導者のフェントンを式部寮共雇いとし、フェントンからの西洋音楽伝習が始まった。明治11年には、一部の伶人たちが東京女子師範学校附属幼稚園で保育唱歌を作成するを通して知り合っ

た主席保母の松野クララから洋琴（ピアノ）のレッスンを受けるようになった。

豊田英雄たちの改訳による歌詞に伶人の手による最初の墨譜が作成されたのは明治10年11月13日であったが、保育唱歌はその後明治15年頃にかけて100数曲作られている。保育唱歌の中には保母の訳詞、作詞の作品によるものを中心に上申に至らなかったものが約1割程度あり、その中には豊田英雄が作詞したフレーベルの第一恩物「六球」の唱歌も含まれている。

II－1．上申日からみた保育唱歌

次の保育唱歌一覧は、上申の年月に着目して作成したものである。本一覧は、芝葛鎮筆「保育唱歌上下」と芝祐夏筆「保育唱歌墨譜本」をまとめた芝祐泰著『保育並遊戯唱歌の撰譜』（p.20-31）、すなわち伶人の家に残る文書をベースに、藤田（1978）曾我（2008）塚原（2009）の研究を照らし合わせて作成した。以下、上申日から順に、曲名、調と旋法、「唱歌・遊戯歌」の種類、作詞者、引用された原著名とその曲名を記している。曲名に記した○と△の印は『保育並遊戯唱歌の撰譜』の記載によるものであり、本一覧ではそのまま転記する。

明治10年

11月13日

風車（壱律）（遊戯歌）（作詞者不詳）（Ronge, Peabody, Douai, The Windmill）
冬燕居（盤律）（唱歌）（作詞者不詳）（Douai, Winter）

12月

- 寒夜（盤律）（唱歌）（作詞者不詳）（Douai, Winter）
- 秋ノ日影（平律）（唱歌）（露霜）（作詞者不詳）
- 百鳥（双呂）（唱歌）（作詞者不詳）（Douai, Birds）
- 家鳩（平律）（遊戯歌）（作詞者不詳）（Ronge, Peabody, Douai, The Pigeon-house）
- 兔（平律）（唱歌）（作者不詳）
- 遊魚（黄律）（遊戯）（作者不詳）（Ronge, Peabody, Fishes）

明治11年

2月22日

- チチコソ（壱律）（唱歌）（作詞者不詳）
- ハハソバ（平律）（唱歌）（Douai, from the kindergarten）
- 我行末（双呂）（唱歌）（作詞者不詳）

- 花橘（黄律）（唱歌）（作詞者不詳）
- 河水（盤律）（唱歌）（作詞者不詳）
- 遊行（平律）（唱歌）

3月

- 学ノ道（壱律）（唱歌）（作詞者不詳）

4月9日

- 墨縄（平律）（唱歌）（作詞者不詳）
- 菊ノカザシ（平律）（唱歌）（作詞者不詳）
- ヤスキタメシ（平律）（唱歌）（作詞者不詳）
- ヨヨノオヤ（黄呂）（唱歌）（本居宣長）
- シロカネ（黄律）（唱歌）（万葉集、山上億良）

6月17日

- 民草（壹律）（唱歌）（豊田英雄）
(Ronge, Peabody, Douai, The Peasant, The Farmer)

7月17日

- 天鶴群（壹律）（唱歌）（万葉集、読人不知）
- ヨロヅノコト（黄律）（唱歌）（作詞者不詳）
- ソムカヌ道（盤律）（唱歌）（作詞者不詳）
- 濱ノ眞砂（盤律）（唱歌）（古今集、読人不知）

8月

- 春日山（壹律）（唱歌）（明倫集、入道前太政大臣女作）
- 神恵（平律）（唱歌）（玉鉢百首、本居宣長）
元ハ早苗（平律）（唱歌）（三草集、少将源定従）
木毎之花（元ハ早苗と同音）（唱歌）（古今集、紀友則）
- 隅田川（双律）（唱歌）（後琴集、村田春海）
- 鹿島ノ神（黄律）（唱歌）（万葉集、大舎人 千文）
- オモウドチ（盤律）（唱歌）（捨遺集、平兼盛）
園ノ遊（壹律）（遊戯歌）（作者不詳）

10月7日

- 兄弟ノ友愛（平律）（唱歌）（豊田英雄訳）
(Douai, The Happy Home Brothers Love)
- 子の遊（平律）（唱歌）（琴後集、村田春海）
- 苗代水（黄律）（唱歌）（明倫集、橘為仲）
- 野山之遊（盤律）（遊戯歌）（豊田英雄訳）(Ronge, Peabody, The Rovers)

11月3日

- 学道（唱歌）（皇后宮）

11月27日

- 神ノ道（壹律）（唱歌）（明倫集、為盛朝臣）
- △筍（壹律）（唱歌）（村田春門）
ミチノク山（平呂）（唱歌）（萬葉集、大伴家持）
カヒアルチヨ（平律）（唱歌）（明倫集、橘枝直）
梓弓（双呂）（唱歌）（明倫集、平春庭）

明治12年

1月16日

- ウナヒノミチビキ（壹律）（唱歌）（豊田英雄訳）(Douai, The Child's Greeting)

教ノ道（平律）（唱歌）（豊田英雄訳）
 露ノ光（平律）（唱歌）（作詞者不詳）
 サザレイシ（双呂）（唱歌）（古今集）
 富士山（盤律）（唱歌）（万葉集、山辺赤人）
 春ノ山辺（双律）（唱歌）

2月5日

盲想（平律）（遊戯歌）（豊田英雄訳）（Douai, Guessing the Singer）
 窮鼠（黄律）（遊戯歌）（豊田英雄訳）（Douai, Cat and Mouse）

5月10日

学校往来（壹律）（唱歌）（豊田英雄訳）（Douai, Home ward）
 人ノ道（壹律）（唱歌）（豊田英雄訳）（Peabody, Lord's Prayer）
 桜ヲ読ル（双呂）（唱歌）（橘千陰）
 王昭君（盤律）（唱歌）（村田春海）
 △造化ノ妙（唱歌）（近藤濱）
 △盲想ノ遊（黄律）（唱歌）（豊田英雄訳）（近藤濱撰譜、芝葛鎮訂）
 （Douai, Guessing）

7月

民草（遊戯歌）（豊田英雄）

9月13日

瀧ノ糸（壹律）（唱歌）（千載集、盛方）
 夏山（壹呂）（唱歌）（金葉集、慈円）
 山時鳥（黄律）（唱歌）（近藤濱）（Ronge, Peabody, Cuckoo）
 コガヒ（唱歌）（拾遺集、兼盛）
 養蠶 盤律（唱歌）（作者不詳）

11月16日

春ノ山辺（唱歌）（古今集）

11月

去冬ノ雪（壹律）（夏山同音）（唱歌）（続後撰集、前関白左大臣）
 唐琴ノ浦（双呂）（梓弓同音）（唱歌）（古今集、素性法師）
 明石ノ浦（壹律）（春日山同音）（唱歌）（柿本人麿）
 梢ノ藤（壹律）（天鶴群同音）（唱歌）（橘千陰）
 木毎ノ花（平律）（元ハ早苗同音）（唱歌）
 コホロギ（壹律）（瀧ノ糸同音）（唱歌）（萬葉集、読人不知）
 山下水（黄律）（夏山同音）（唱歌）（拾遺集、紀貫之）
 堤ノ雲（盤律）（思フトチ同音）（唱歌）（村田春野）
 二見ノ浦（ソムカヌ道同音）（唱歌）（藤原兼輔）
 山家（盤律）（野辺之遊同音）（遊戯歌）（近藤濱）
 水底ノ月（双律）（春ノ山辺同音）（唱歌）（古今集、紀貫之）
 （Douai, Moon and Stars）

12月9日

四季（双・黄・平・盤律）（遊戯歌）（近藤濱）
 (Douai, Winter's End, Summer, Autumn)

明治13年

5月20日

竹之根（平律）（唱歌）（橘千陰）
 行巡（平律）（唱歌）（続古今集、小野右大臣）
 雪降（平律）（唱歌）（古今集）（Douai, Snowballing）
 イロハ（双律）（唱歌）（作詞者不詳）
 君が恵（黄律）（唱歌）（作詞者不詳）
 白雲（盤律）（唱歌）（村田春海）
 宇治川（双律）（遊戯）（万葉集、柿本人麿）
 花見之駒（壱律）（遊戯歌）（近藤濱）

6月

鏡山（壱律）（唱歌）（作者不詳）
 フリヌルフミ（平律）（唱歌）（作者不詳）
 欸冬（盤律）

明治15年

3月 科戸ノ風（盤律）（遊戯歌）（水戸斉昭）

上申の日時が明らかにされていないもの

唱歌

大和撫子（壱律）（唱歌）（権掌侍、税所敦子）
 若紫（壱律）（唱歌）（権命婦、平尾歌子）
 君が代（壱律）（唱歌）（古今集、君が代）
 ウミユカバ（壱律）（唱歌）（万葉集、大伴家持）
 六ノ球（平律）（唱歌）（豊田英雄）（Ronge, 25、26、27、28）
 赤色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 黄色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 青色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 柑色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 緑色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 紫色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 元色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 間色（平律）（唱歌）（豊田英雄）
 倭心（平律）（唱歌）（水戸斎昭）
 山吹（盤律）（唱歌）（作詞者不詳）

遊戯歌

兎（遊戯歌）（作詞者不詳）（Ronge, Peabody, The Hares）

遊行（遊戯歌）（作詞者不詳）（Ronge, Peabody, The Wheel-barrow）

ウミユカバ（壺律）（遊戯歌）（作詞者不詳）

この上申日の一覧を見ると、東京女子師範学校附属幼稚園が開設された翌年の明治11年から明治12年にかけて多くの保育唱歌が作成されたが、明治13年以降は上申の数が激減していることが分かる。

II-2. 『雅楽録』にみられる唱歌遊戯

藤田（1978）の研究の後、情報公開法により一般公開されるようになった宮内庁書陵部所蔵の『雅楽録』を用いて研究をおこなった曾我（2008）は、『雅楽録』にみられる「保育唱歌」の作成過程を明らかにした。その中には藤田（1978）の研究で上申日が明らかにされていない次の3つの遊戯が取り上げられている。

明治10年(1877)11月、遊戯「風車ノ歌」、歌詞と墨譜のみ。

明治12年(1879)7月、遊戯・幼童運動戯伎譜「民草」、振付の記載あり。

明治15年(1882)3月、遊戯・盤渉調律旋「科戸ノ風」、歌詞と墨譜のみ。

次に、『雅楽録』に唱歌遊戯として上申日が明記されていた「風車ノ歌」と豊田英雄との関係について述べる。

II-3. 遊戯「風車ノ歌」をめぐる

「風車ノ歌」は、明治10年11月27日に皇太后・皇后の行啓のもと開催された東京女子師範学校附属幼稚園正式開業式で披露された遊戯であり、11月3日に幼稚園側から改訳された歌詞が提出され、式部寮の伶人東儀季熙により墨譜が作成された。この曲のもとになっているものは、桑田新五訳『幼稚園 巻下』に掲載されている「第九 風車ノ歌」、関信三訳『幼稚園記』の「附録第三章戯劇」に掲載されている「風車」、桑田の翻訳の原本にあたるロンゲの著書では「X The Windmill」、関の翻訳の原本にあたるドゥアイの著書「17. The Mill」とピーボディの「Windmill and Waterwheel」であることが明らかにされている。保育唱歌「風車」の改訳が東京女子師範学校附属幼稚園で作成され式部寮へ提出された明治10年11月3日の時点では、フレーベルの遊戯歌を掲載している桑田新五の『幼稚園 巻下』（明治11年6月刊行）とピーボディの書を訳した関信三の『幼稚園記 附録』（明治10年12月刊行）は刊行されていない。したがって、この雅楽録に記録された遊戯「風車ノ歌」の改訳作業は、当時東京女子師範学校附属幼稚園監事であった関の『幼稚園記』、およびロンゲやドゥアイの原著を照らし合わせておこなわれた、あるいは、松野クララが知っていた曲をベースにおこなわれた可能性が考えられる。

文部省『教育雑誌』第52号（明治10年12月25日発行）に、明治10年11月27日におこなわ

れた東京女子師範学校附属幼稚園開業式の様子が記されている。そこには、皇太后・皇后宮の前で披露された遊戯歌「風車」の歌詞が掲載されている。

- (一) 風車 風のまにまに只めぐる
やまずめぐるも やまずめぐるも
(二) 水車 水のまにまに只めぐる
やまずめぐるも やまずめぐるも

また、この「風車」は明治20年6月刊行文部省音楽取調掛編『幼稚園唱歌集』の中に唯一掲載された保育唱歌であり、第26曲目「風車」として次のような歌詞で掲載されているが作詞者は記されていない。

- (一) かざぐるま 風のまにまに めぐるなり
やまずめぐるも やまずめぐるも
(二) みづぐるま 水のまにまに めぐるなり
やまずめぐるも やまずめぐるも

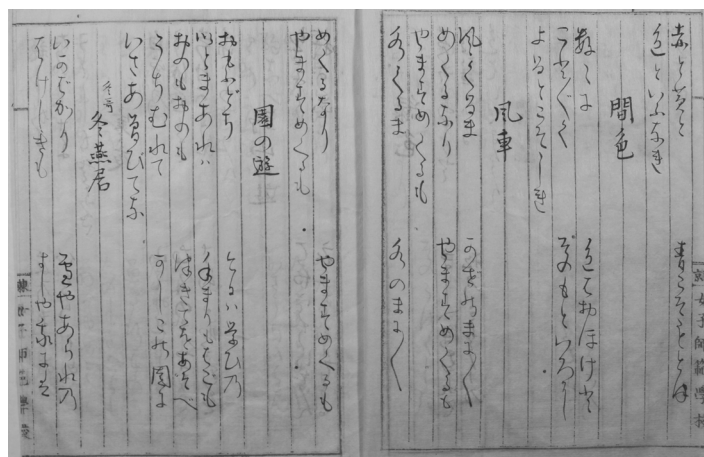
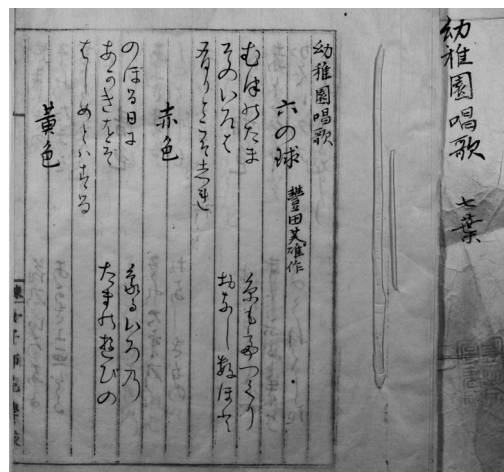
ところで、この『幼稚園唱歌集』に掲載された「風車」の歌詞と同じものが、倉橋惣三の『日本幼稚園史』の中に記されている。この歌詞は、倉橋が昭和3年（1928）年8月に当時84歳の豊田英雄を水戸の自宅に訪ね、そこで書籍棚の奥から豊田が取り出して倉橋に見せた豊田の自筆文書の中に書かれていた唱歌であったことを回想している。ⁱⁱ⁾

倉橋が『日本幼稚園史』に載せた歌詞の冒頭には「風車 遊戯あり」という一文が記されている。豊田の手元に残った「幼稚園唱歌 七葉」にはこの一文が記されていないため、倉橋に手渡したものが清書の完成版の一つであった可能性が推察される。

風車 遊戯あり

- (一) かざぐるま 風のまにまに めぐるなり
やまずめぐるも やまずめぐるも
(二) みづぐるま 水のまにまに めぐるなり
やまずめぐるも やまずめぐるも

そして、豊田の家に残された英雄の自筆文書『幼稚園唱歌 七葉』の「風車」は次のとおりである。



Ⅲ. 伶人にとっての保育唱歌の位置づけの変化

塚原（2009）は、明治11年11月28日付けの『雅楽録』に雅楽課伶人が式部寮式部頭宛てた次のような上申記録を明らかにした。

国歌撰定ニ付雅楽課ヨリ式部頭へ懇願ノ件

明治11年11月28日付 雅楽課より式部頭宛

西洋各国ニ於テハ、各自其国家ト申者有之右之歌ハ国民一般ニ相心得認候由其詞章ノ如キハ多ク各自其国ノ政体及美事ヲ讃賞致シ候章句之趣ニ有之候近来御国ニ於テモ追々各種ノ歌曲勃興候得共未一定仕候御国歌ト可申程之品モ承知不仕幼稚園ニテ相歌唱候歌ノ如キハ追々諸学校へモ派及可致品ニ有之候得共詞章ハ是迄皆該園ヨリ申来候ニ任セ候間雑体ニテ西洋各国之国歌ニ可対モノニ無之依テハ御国対ヲ始メ聖上之御稜威及御維新之成績ヲ讃美仕候新歌長短各種ヲ文学御用掛ノ辺ニテ相撰右へ墨譜ヲ撰定仕幼稚園ヲ始諸学校へ御頒布相成候ハ、御国風一般ニ流布歌曲之根幹トモ相成ト考申候

仰願クハ其筋へ可然御申立被成下御施行相成候様懇願仕候也

明治11年11月28日付 雅楽課より式部頭宛

(『雅楽録』明治11年38号／塚原『明治国家と雅楽』p.116)

この上申は、それまで豊田英雄たち保母が改訳および作詞をおこなってきた保育唱歌が雑体であるため、国楽にふさわしい歌詞を宮内省文学御用掛の国学者に選定させるようにしたいという伶人からの申し出であった。この上申からは、幼稚園開業以来豊田英雄たちが取り組んできたフレーベル式保育の幼稚園書の改訳および作詞ではなく、国学者の選定による文学的に価値の高い詩の歌詞に唱歌の内容を変えていきたいという伶人たちの思惑があったことを示している。

伶人たちが吹奏楽を室内の饗宴の場にふさわしい演奏形態ではないと考え始めた時期は、丁度保育唱歌の上申が盛んに行われていた明治11年から明治12年の時期と重なっている。これは、伶人にとっての保育唱歌の位置づけが、当初の目的であった東京女子師範学校附属幼稚園の日々の保育の唱歌から公開演奏会のプログラムへと移行していく時期と重なっている。最も大きな変化は、唱歌の対象が園児から、東京女子師範学校の生徒たちへと拡大されたことがあげられる。このような思惑の中で、明治11年9月11日東京女子師範学校附属幼稚園の保母および本校の生徒への唱歌伝習が開始されていた。

東京女子師範学校附属幼稚園開設当初の唱歌作成目的は、幼稚園でのフレーベル式保育の活動の中で必須の唱歌遊戯教材を作ることにあった。しかし、伶人が唱歌指導をするにあたり、その対象が保母や保母見習生および本校生徒へと広がり、その適用の範囲も広がって行ったのである。

IV. 考察と今後の課題

伶人たちが本来の専門である雅楽の他に自ら積極的に西洋音楽を吸収していった背景には、海軍軍楽隊の吹奏楽とは異なる新しい自分たちの西洋音楽、すなわち管弦楽による室内音楽を構築しようとするねらいがあった。式部寮は日本で最初のフレーベル式幼稚園開設にあたり、東京女子師範学校摂理中村正直からの依頼により保育唱歌の作成に携わるようになった。開設当初、伶人は豊田英雄たちの改訳による歌詞に作曲をおこなっていた。保育唱歌の中には保母の訳詞、作詞の作品によるものを中心に上申に至らなかったものが約1割程度あり、その中に豊田英雄が作詞したフレーベルの第一恩物「六球」の唱歌も含まれていた。

伶人は東京女子師範学校附属幼稚園保母たちや本校の生徒に唱歌指導をするにあたり、その歌詞が国楽としてすぐれたものである必要があると考え、国文学者を詩の選定者として迎えた。そうして出来上がった唱歌を、その後伶人は自分たちの管弦楽室内演奏プログラムとして公開演奏の場で披露することとなる。

明治10年11月27日、東京女子師範学校は、皇太后と皇后宮行啓による盛大な開業式を迎えた。この時に披露された「風車」(遊戯歌)と「冬燕居」(唱歌)が、保母の訳詞と伶人の作曲による最初の保育唱歌となった。日本で最初のフレーベル式幼稚園である東京女子師範学校附属幼稚園の保育教材として出発した『保育唱歌』は、時代の流れの中で作曲者

の伶人たちの思惑も重なり、質的変容を遂げていったことが明らかになった。

今後は、豊田英雄の自筆文書の解説をさらに進め、『保育唱歌』の歴史的変遷を明らかにしていきたい。

【注】

- i) 塚原（2009）曾我（2008）による『雅楽録』の研究によると、伶人からの保母たちへの伝習は、明治11年2月15日、東京女子師範学校、唱歌の科を実施。幼稚園保母、暫定的に唱歌の教員を兼ねる。明治11年2月23日、「日課奏楽ノ為幼稚園保母稽古所へ来所ノ件」雅楽課から式部寮へ依頼。「明治十一年二月廿三日、来ル廿六日、日課奏楽ノ為聴聞幼稚園保母拾ニ三名稽古所へ相越度旨、打合有之候ニ付、差問之旨相答置候、此段御届申置候也」明治11年9月19日、東京女子師範学校本科の唱歌指導、保母に代わって伶人がおこなう（月曜と木曜）、と記されていたことが明らかにされた。
- ii) 『日本幼稚園史』倉橋惣三・新庄よし子共著 臨川書店 1983年9月 復刻版第二刷 p.247 -267

【参考文献】

- F.Froebel, J.Ronge and B.Ronge, A Practical Guide to the English Kinder Garten, Thoemmes Press1994, England (This is a reprint of the 1858 Edition)
- 『幼稚園 巻上』桑田新五訳 文部省 1876年（明治9年）1月 昭和53年4月 複製第一刷発行 日本らいぶらり
- 『幼稚園 巻中』桑田新五訳 文部省 1877年（明治10年）7月 昭和53年4月 複製第一刷発行 日本らいぶらり
- 『幼稚園 巻下』桑田新五訳 文部省 1878年（明治11年）6月 昭和53年4月 複製第一刷発行 日本らいぶらり
- 『幼稚園記 一』関信三 版權所有東京女子師範学校 1876年（明治9年）7月 昭和53年4月 複製第一刷発行 日本らいぶらり
- 『幼稚園記 二』関信三 版權所有東京女子師範学校 1876年（明治9年）7月 昭和53年4月 複製第一刷発行 日本らいぶらり
- 『幼稚園記 三』関信三 版權所有東京女子師範学校 1876年（明治9年）7月 昭和53年4月 複製第一刷発行 日本らいぶらり
- 『明治保育文献集 第一巻』岡田正章監修 日本らいぶらり 昭和52年3月
- 『明治保育文献集 第二巻』岡田正章監修 日本らいぶらり 昭和52年3月
- 「母の歌と愛撫の歌（1）－三歳未満時の遊び①－」『乳幼児の教育 No.130』 荘司泰弘 2010年 SPRING キュックリヒ記念財団
- 「フレーベルの『母の遊戯と育児歌』の教育的意義とアメリカ,日本での受容の検討：その2 日本での受容と「遊戯唱歌教材」としての意味」白川蓉子 神戸大学発達科学部研究紀要 5 (1) 1997年
- 『日本幼稚園史序説 関信三と近代日本の黎明』国吉栄著 新読書社 2005年4月
- 『明治国家と雅楽 伝統の近代化 / 国楽の創成』塚原康子著 有志舎 2009年
- 「唱歌遊戯の成立過程に関する研究：『雅楽録』にみられる「保育唱歌」の作成過程から」

曾我芳枝 体育学研究53（2）2008年

『毫モ異ナル所ナシ 伊澤修二の音律論』吉田孝著 関西学院大学出版会 2011年3月

『東京芸術大学百年史・東京音楽学校編』

『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』塚原康子著 多賀出版 1996年7月

『保育並遊戯唱歌の撰譜』全六巻芝祐泰編 江崎公子編『音楽基礎研究文献集15巻』大空社 1991年2月

「保育唱歌研究—フレーベル式幼稚園唱歌遊戯移入の経過を中心として—」『国立音楽大学創立五十周年記念論文集』藤田美美子 国立音楽大学 1978年

『日本幼稚園史』倉橋惣三・新庄よし子共著 臨川書店 1983年9月 復刻版第二刷

『保育唱歌におけるフレーベル主義—豊田英雄の文書を中心に—』東ゆかり 鎌倉女子大学学術研究所報 第15号 2015年

「保育唱歌「六球」の歌詞推敲について—豊田英雄の自筆文書から—」東ゆかり 鎌倉女子大学紀要 第21号 2014年3月